

資源エネルギー・持続可能社会に関する調査会で質問に立ちました



参議院議員・薬剤師 神谷政幸

令和6年2月14日の参議院資源エネルギー・持続可能社会に関する調査会で質問に立ちました。薬学部では放射化学や放射性医薬品学を学びます。病院では放射性医薬品を扱っており、一部の病院ではPET検査で用いられる薬剤の調製等を薬剤師が行っています。日本核医学会は核医学認定薬剤師制度を設置しています。放射性医薬品には直接人体に投与し、体外から放射性同位元素が放出する微量の放射線を測定する体内診断用放射性医薬品と、直接人体には投与せず、血液及び尿中に含まれる微量の物質を体外で測定する体外診断用放射性医薬品がありますが、今回の調査会では、がん治療で治療と診断を一体化した新しい医療技術である「セラノスティクス」について、量子科学技術の未来への可能性も含めて質問しました。

病巣の内部から α 線を照射し、がん細胞を死滅させることが期待されているアクチニウム225は、骨転移が全身に広がった転移性前立腺がん治療に対する効果が世界中で注目を集めています。これを生成するために加速器、若しくは原子炉を用います。質問では、現在運転を停止している高速実験炉「常陽」において、アクチニウム225の製造能力の実証に活用する目的で原子炉設置変更許可申請が行われたことと、国際社会における我が国の優位性について質問しました。「常陽」が運転を再開した場合、OECD諸国で運転を行う唯一の高速炉となることから、アクチニウム225を大量に製造できる利点を持つ高速炉を活用した製造手法の研究開発を世界に先駆けて行うことができる旨の回答を得ました。今後更なる発展が期待されるラジオセラノスティクスの分野で我が国がしっかり存在感を示し、一日も早く新しい治療法が提供されるよう要望しました。

資源エネルギー・持続可能社会に関する調査会

YouTube 動画はこちら▶

